

2017年2月1日

## 日本ユニシスグループ IoT デバイス機器の稼働監視・自動化運用を実現する 「IoT ビジネスプラットフォーム IoT デバイス管理機能」を提供開始

日本ユニシス株式会社（本社：東京都江東区、社長：平岡 昭良）とユニアダックス株式会社（本社：東京都江東区、社長：東 常夫）の日本ユニシスグループは、IoT デバイス機器の稼働監視や自動化運用を実現する「IoT ビジネスプラットフォーム IoT デバイス管理機能」を提供開始します。

「IoT ビジネスプラットフォーム IoT デバイス管理機能」は、日本ユニシスグループが提供する「IoT ビジネスプラットフォームサービス」<sup>(注1)</sup>の追加機能として、マイクロソフト社のクラウドプラットフォーム Microsoft® Azure®上で提供するものです。まず、接続デバイス機器の生死監視を行う実証実験（PoC）向け「ライト版」の提供を2017年1月31日から開始し、さらに機能を強化した本番運用向け「スタンダード版」を2017年3月31日から提供する予定です。

総務省「平成28年度 情報通信白書」によると、インターネットに接続するIoT デバイス機器は、2020年までに304億個まで増大するとされており、今後は多数のIoT デバイス機器が広く設置・利用されることが予想されます。しかし、人を介さずに自動でセンシングデータを収集・分析・判断するIoTの目的に対して、デバイスを管理するために人手をかけているのが現状です。

また総務省が発表した「IoTセキュリティガイドライン Ver1.0」において、IoTセキュリティリスクの一つとして、IoT機器に対する監視が行き届きにくいことが指摘されており、脆弱性の対策を行ったソフトウェアをIoT機器へ配布・アップデートする手段が必要であると言われています。

このように、IoTの普及が進む中で、IoT機器の状態を監視して保守する必要性が高まっています。「IoT ビジネスプラットフォーム デバイス管理機能」は、人手のかかる運用管理の自動化や、セキュリティを意識した運用が可能となるため、今後のIoT活用に大きく貢献することが期待されます。

特に、遠隔地にIoT デバイス機器を設置する場合や、大量のIoT デバイス機器を設置する場合に、本機能を活用することにより、運用管理者の負荷軽減、運用コストの削減を実現します。

本機能の特徴は以下のとおりです。

### 1. Microsoft Azure ベースのデバイス管理

本機能は、Microsoft Azure が提供するIoT サービス（IoT Hub などの Azure PaaS）を中核とした「IoT ビジネスプラットフォームサービス」の追加機能として提供します。

IoT デバイス管理機能の対応デバイスの第1弾として、株式会社アットマークテクノの

「Armadillo®-IoT ゲートウェイ」や、ぷらっとホーム株式会社の「OpenBlocks®」を管理対象デバイスとしています。さらにマイクロソフトのIoT デバイス SDK を用いて、さまざまなデバイスにも対応していきます。Microsoft Azure のIoT サービスを採用することで、デバイス管理機能の大きなメリット（優位性）となります。

## 2. IoTにおけるデバイスセキュリティ機能の強化

IoTデバイス機器がDDoS攻撃<sup>(注2)</sup>により被害を受け、全機器を交換するような深刻なセキュリティ事故が起きています。「IoTビジネスプラットフォーム デバイス管理機能」は、遠隔に設置されているデバイス機器や、大量に設置されているデバイス機器を監視・管理し、遠隔操作でファームウェアの更新やデバイス機器自体の制御を実施するため、安全なシステム環境を実現することが可能となります。

## 3. 運用管理者の負荷を軽減する自動化機能

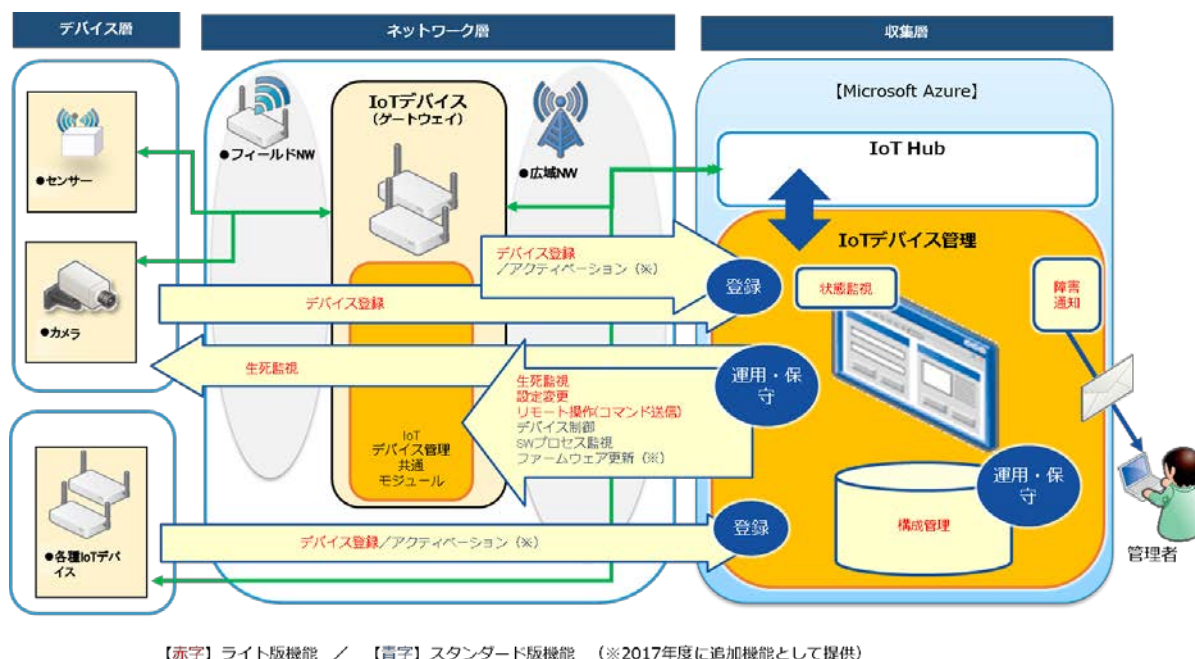
IoTシステムに接続するゲートウェイ機器／センサーデバイス機器を定期的に監視し、障害などにより応答が無い場合は、電子メールにて障害の通知を行います。またデバイス設置時に機器の電源を入れるだけで、自動的にIoTシステムに接続し、そのまま利用できる「アクティベーション機能」をスタンダード版の機能として提供します。

(2017年度提供予定。特許出願準備中。)

## 4. 「共通モジュール」の提供

より多くのゲートウェイ機器／センサーデバイス機器と接続ができるように「共通モジュール」として接続インターフェースを提供します。すでに動作検証の取れている機器は、そのまま「共通モジュール」を適用することで利用が可能になります。

### ■「IoTビジネスプラットフォーム IoTデバイス管理機能」概要図



今後日本ユニシスグループは、「IoTビジネスプラットフォーム IoTデバイス管理機能」および管理対象となるIoTデバイス (IoTゲートウェイ、センサーデバイス)、デバイス管理の運用に必要なネットワーク、Microsoft Azureなど関連製品を含めて、今後3年間で300ユーザー、30億円の売り上げを目指します。

以上

【エンドースメント】 今回の発表に当たり、以下のコメントをいただいています。

日本マイクロソフト株式会社  
クラウド&エンタープライズビジネス本部  
業務執行役員 本部長 佐藤 久氏

日本マイクロソフト株式会社は、日本ユニシスグループ様による IoT デバイス機器の稼働監視や自動化運用の実現に際し、Microsoft Azure を活用した「IoT ビジネスプラットフォーム IoT デバイス管理機能」のリリースを心より歓迎いたします。

今回、発表された日本ユニシスグループ様が提供する「IoT ビジネスプラットフォーム IoT デバイス管理機能」により、人手のかかる運用管理の自動化や、セキュリティーを意識した運用が可能となり、特に遠隔地、もしくは大量の IoT デバイス機器を設置する場合に本機能を活用することで、運用管理者の負荷の軽減、ならびに運用コストの削減効果が見込まれ、今後の IoT 活用に大きく貢献することを期待しています。

今後も日本マイクロソフトは、日本ユニシスグループ様との連携を強化し、クラウドを活用した IoT ビジネスの発展に寄与してまいります。

#### 注 1: IoT ビジネスプラットフォームサービス

センサーなどのデバイスやカメラの画像解析も対象とし、センサーなどのデバイス・ネットワークの提供からデータ収集・配信、データ加工・解析までのワンストップサービスを実現する、日本ユニシスグループが提供する IoT プラットフォームです。Microsoft Azure の IoT サービスを採用することで、IoT に必要なスケラビリティを提供できます。

#### 注 2: DDoS 攻撃

ネットワークを通じ、複数のマシンから大量の処理負荷を与えることでサービスを機能停止状態とする手法です。

#### ■関連 URL

2015 年 10 月 23 日付ニュースリリース

日本ユニシスグループ センサーなどのデバイスやカメラの画像解析も対象とした「IoT ビジネスプラットフォームサービス」開発開始

[http://www.unisys.co.jp/news/nr\\_151023\\_iotbpf.html](http://www.unisys.co.jp/news/nr_151023_iotbpf.html)

※Microsoft、Azure は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

※Armadillo は、株式会社アットマークテクノの登録商標です。

※OpenBlocks は、ぷらっとホーム株式会社の登録商標です。

※その他記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

※掲載のニュースリリース情報は、発表日現在のものです。その後予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。